令和4年度　学力向上推進プロジェクト計画

南城市立馬天小学校

1　目標

学力向上の取組の重点を「授業改善」におき、日々の授業の充実を通して、「本校の目ざす児童像」の実現を図る。

○自他を認め合い、すすんで他者と関わり、相手の立場になって行動する子
○「問い」をもって取り組み、仲間と関わり合いながら、課題を解決できる子
○基本的な生活習慣を身に付け、目標を立てて実行し、継続できる子

(1)　**本年度の学力向上における重点事項目標**

①　令和３年度の調査結果や取り組み等を分析し、日々の授業において改善を要する内容に対応した授業作りを行う。また、校内研究（国語）と連携し、授業改善を推進する。
②　「県学力向上プロジェクト」、「市学力向上推進プロジェクト」の趣旨を踏まえ、本校の児童の実態に即した「馬天小学力向上プロジェクト」を立案、推進する。
③　本校指導の合い言葉である「そろえる馬天・つながる馬天」を具現化する実践として、教職員一人一人が力を発揮できる環境整備を行い、「チーム馬天」として質の高い教育活動を展開することで子供たち一人一人に新しい時代に求められる資質・能力を身に付けさせる。

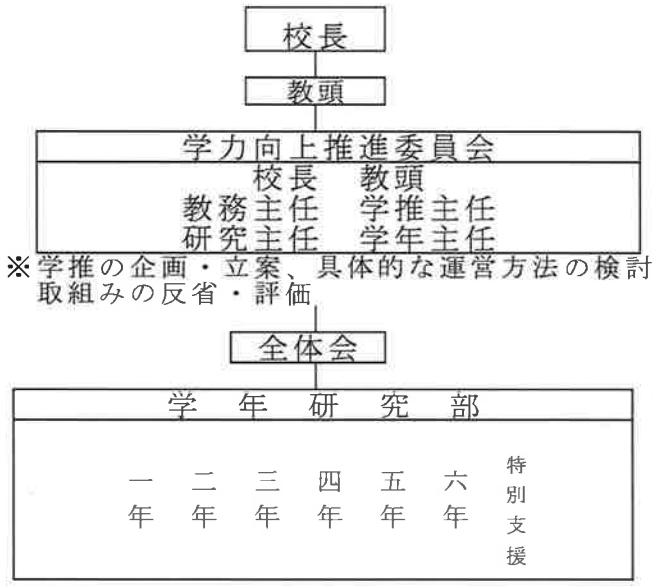
2　方針

(1)　校長の学校経営基本方針のもと、取組事項の共通理解を図り、協働体制で実践する。
(2)　県学力向上推進プロジェクト・市学力向上推進プロジェクトを踏まえ、本校の児童の実態に合わせた学力向上推進プロジェクトを推進する。
(3)　校内研修と連携し、効率的・効果的な取組を推進する。
(4)　キャリア教育の視点（なりたい自分を目指した自立した学習者の育成）をふまえて学力の向上を推進する。
(5)　幼・小・中が連携し、系統的・継続的な授業改善の推進を図る。
(6)　資質・能力の３つの柱で整理した評価計画への取り組みを推進する。
(7)　カリキュラム・マネジメントを生かした指導計画への取り組みを推進する。
(8)　主体的・対話的で深い学びを実現する授業への取り組みを推進する。

3　年次計画

推進期間 … 令和４年４月 ～ 令和５年３月

4　推進体制



※学推の具体的取組みの実践・各学年の取組み結果のデータ収集・反省・評価・対応策を検討する。

5　年間実施内容計画

4月 5月 6月	**レディネスをそろえる（P・D）** ◇学推共通実践項目の確認及び各学年の課題把握（学推委①） ・カリキュラム一覧表の作成 ◇レディネスをそろえる月間 ・国算における基礎基本事項の定着（モジュール時間の活用） ・校内研との連携 ◇生活、学習規律確立月間 ・生活リズムチェック（10日間） ・「そろえる馬天⑩」の課題確認 ・家庭学習推進月間（５月） ◇学力状況調査（アセスメント） 全国学力・学習状況調査（６学年） 学びのたしかめテスト（4・5学年） 学習状況チェック（2・3学年） ※２・３年の学習状況チェックは本校独自の実施	7月 8月	**学力状況を把握する①（C）** ◇各学年における調査結果の分析 ・各学年による分析シート作成 ・分析に基づいた夏季休業における課題の作成 ◇学力状況を把握する（学推委②） ・各学年及び本校の学力課題の把握 ・２学期以降の各学年における具体的な取り組みの計画（学推委③） ①モジュール授業内容の工夫 ②校内研との連携による日々の授業の工夫 ③カリキュラムの見直し ◇生活、学習規律確立週間（8月） ・生活リズムチェック（10日間） ・「そろえる馬天⑩」の課題確認
9月 10月 11月 12月 1月	**学力向上強化の取り組み（A）** ◇家庭学習推進月間（９月） ◇学力向上のための取り組み ・モジュール授業の実施 ・課題に応じた授業の実施（校内研との連動） ・教科領域を横断したカリキュラムの実践 ◇分析に基づいた冬季休業における課題の作成 ◇調査結果に基づいた授業アイディアについて研修（学推委④） ◇生活、学習規律確立週間（1月） ・生活リズムチェック（10日間） ・「そろえる馬天⑩」の課題確認	2月 3月	**取り組みの評価・改善** ◇学力状況調査（2月） 県到達度調査（5・6学年） 学習状況チェック（1～4学年） ◇各学年における調査結果の分析（学推委⑤） ・各学年による分析シート作成 ◇分析に基づいた改善策の検討と実施 ・モジュール授業内容の工夫 ・課題に応じた日々の授業の改善 ・教科領域を横断したカリキュラムの改善 ◇取り組みのふり返りと次年度に向けた計画案の作成（学推委⑥）

6　共通実践項目

(1)　授業の質的改善～「～したい」「～できた」を実感する授業づくり

◇参加できる、参加したくなる工夫
児童の既習事項や生活経験を引き出し発揮させながら進める授業
◇わかる、できる（使える）ための工夫
児童の思考過程に即したスモールステップでの授業展開や、仲間との協働を通して気づきや思考の深まりを生み出す授業
◇考えたことの価値や成長を実感できるための工夫
ふり返りとそのフィードバックによる価値づけのある授業

(2)　調査から明らかになった課題への対応

◇授業における表現活動（説明や教え合いなど）の位置づけ
自分の考えを書いたり説明したりするアウトプットの場や時間の設定

◇朝の学習（低学年）やモジュール学習の有効活用（月・火・木）
校内研と連携し、表現活動の土台となる学習の推進
◇個別補習の実施
形成評価（ミニテスト等）に基づいた即応的な補習（その日のうちに）の実施
◇宿題や家庭学習との連動
授業内容や補習と連動した宿題（家庭学習）の実施

(3)　落ち着いた学習環境づくり

◇「そろえる馬天⑩」の実施と徹底
生徒指導と連携し、意義についても共に考え学び合う指導の推進
◇よりよい生活習慣づくりへの働きかけ
養護教諭と連携し、毎学期の「生活リズムチェック」と連動した保健や特活授業の推進

(4)　やりがい・潤いのある学校生活づくり

◇家庭学習（自学自習）の推進
キャリア教育と連携し、自分で考えよりよく学ぶ家庭学習の推進
◇児童会活動を中心とした主体性のある学校生活づくりの推進
児童会と連携し、６年生の児童会活動を中心に自主性・主体性のある活動を推進
（馬天っ子の挑戦、学級会をもとにした自主活動の推奨）

7　「県学力向上推進５か年ﾌﾟﾗﾝﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡ」を踏まえた授業改善について

(1)　目ざす児童像の共有

目ざす児童像と授業像を共有し、これから必要とされる資質・能力を実現できる学びを学校生活の中で展開する。

□　自他を認め合い、すすんで他者と関わり、相手の立場になって行動する子
□　「問い」をもって取り組み、仲間と関わり合いながら、課題を解決できる子
□　基本的な生活習慣を身に付け、目標を立てて実行し、継続できる子

(2)　日々の授業の質的改善

授業改善を計画的・継続的に推進していくとともに、「学び続ける教師」として実践を積み上げ授業力を高めていくために、教師一人一人がカリキュラム・マネジメントを意識し、多様な教材研究の方法を職員間で共有し、組織的に教材研究を進めていく。

〈めざす授業像〉※義務教育課「授業の基本事項」に基づいて
□　参加できる・参加したくなる授業
-既習や生活体験を生かし、自分の考えをもって参加できる導入の工夫
-調べたい！解決したい！と思えるような「問い」
□　わかる・できる授業
-ＩＣＴ機器や教材ツール、板書による学習内容の「視覚化」
-何をどのようにすればよいのか、という学習活動の「見通し」
-主体的な活動（児童が自分でやる活動）の確保
-多様な適用問題を繰り出し、自分の考えをもたせ表現（説明）させる
□　価値や成長を実感できる授業

-視点を与えたより効果的な「ふり返り」の工夫
-「ふり返り」への価値づけでさらなるやる気や次時へのきっかけを引き出す工夫

(3) 教材研究ツールの活用

① 「授業の基本事項」シートを日常的に活用することで、授業力の向上を図る。

② 各種調査料の分析・活用
全国学力・学習状況調査や県学力到達度調査、学びのたしかめテストの結果分析を行い、授業づくりに活用することを通して、授業改善につなげる。

③ 組織的な取り組みの充実
学年会を教材研究を深める場とすることで、教材研究の充実を図る。

④ 授業研究会の充実
めざす授業や子どもの姿の実現を図れたかどうかについて協議し、具体的な授業改善につなげていき、学年の枠を超えた共通の視点を持って協議する。

⑤ 校種間の連携
幼・小・中・特支が学びの連続性・系統的な指導を意識し連携する。

(4) 学力向上マネジメントの推進

全ての教職員が学力向上の具体的な到達目標を共有し、取組を徹底、連動していくことで、実践意識を高め、学校全体で授業改善を推進し、児童生徒の学力の向上を図る。

① 学力向上マネジメントを機能させる

□ ビジョンの構築・共有・浸透
・めざす子供の姿、めざす授業像を共有、浸透させる。

□ 到達目標の設定及び具体的な手立ての明確化
・具体的な到達目標を設定し、到達目標に向けた具体的な手立てや道筋（学力向上年間サイクル）を講じ、その意義を全職員で共有する。

□ PDCAサイクルの円滑な推進
・取組の進捗状況を定期的に点検し、課題については新たな改善策を講じるPDCAサイクルを円滑に推進し、学力向上の取組をマネジメントする。

② 全校体制による取組を推進する

□ 管理職による日々の授業観察とフィードバック
・管理職は日々の授業及び教育活動を観察し、個々の実践について適宜フィードバックを行い、授業改善を推進する。

□ 学校OJTの推進
・学年会、校内研究等の充実により、同僚性を構築し職員相互が学び合い、成長を促す職場風土を醸成する。

③ 学習を支える力の育成
授業改善を推進していく上で、その土台となる「学習を支える力」を育成していくことは重要である。学校・家庭・地域が連携し積極的に取り組む。

□ 規範意識・マナーの向上
・ 学校生活や家庭生活を通して、挨拶、返事等の習慣化、他人を思いやる心や認め合う心等を育む。

□ 家庭学習の習慣化
・ 家庭では、家庭学習を習慣化させるとともに、学校では「授業と連想した宿題」及び「自学自習」を推進する。

□ 生活リズムの確立
・ 毎朝きちんと朝食をとり、「食べて、動いて、よく寝よう」を実践し、早ね早起きで規則正しい生活リズムを確立する。

□ 学習環境の充実
・ 学習の準備、始終業時刻の遵守等、学習規律を徹底するとともに、机やロッカー、

掲示物等の教室環境を整える。

□　対話の充実

・　家庭を中心とした対話を通して、心の居場所つくり、絆を深め、自尊感情を高めて、夢や希望を育む。

□　読書活動の充実

・　図書室等の活用を推進し、主体的・目的的な読みの力を培うとともに、読書をする習慣を身に付け、豊かな心を育む。

□　部活動の充実と適正化

・　部活動の活動時間等の適正化を図り、学習意欲の向上や責任感・連帯感を涵養する。

□　体験活動の充実

・　体験活動を通して、生活や学習に対する興味・関心・意欲を高め、問題発見・問題解決能力を育成し、社会性を育む。

(5)　集団づくり・自主性を高める取組の充実

互いに高め合える集団づくりを通して、個人・集団における自主的・実践的な態度を育成することは、「他者と関わりながら、課題の解決に向かい『問い』が生まれる授業」の土台となる要素である。集団づくり・自主性を高める取組の充実をめざす。

①　支持的風土をつくる学級経営

□　教師と児童の信頼関係や児童相互の温かい人間関係を築き、子供同士が自分の考えや思い等を安心して表現できる支持的風土は、主体的・対話的な学びの基盤となる。支持的風土を醸成できるよう学級経営の充実を図る。

②　生徒指導の三つのポイントを生かした授業

□　よりよい集団づくりや自主性を高めるためには、他者と関わることの良さを実感し自分なりの考えを持って行動できることが重要である。そのためには、「生徒指導の三つのポイント」（自己存在感を与えること）（共感的な人間関係を育てること）（自己決定の場や機会を与えること）が生かされた授業を日常的に実践する。

③　学びに向かう集団づくりを進める学級活動及び児童会

□　児童生徒の自主的・実践的な態度を育てることは、個々の児童や集団における問題解決能力の高まりにつながる。学びに向かう集団づくりを進んるために、学級活動や児童会活動等の充実を図る取組を行う。

8　学力向上推進における公約・公開・公表

①　公約

(1)　学推の具体的な取組についての保護者への説明・・・【学推担当】【学級担任】

(2)　学校訪問等での説明・・・【学推担当】

②　公開

(1)　定例授業参観日における各学級の授業公開・・・【学級担任】

③　公表

(1)　学級保護者会における各学級の具体的取組状況の報告・・・【学年・学級担任】

(2)　学推実践報告会の実施（教育の日）・・・【学推担当】